



25 March, 2012

PARTNERS

VAPSn XPEL
Car Protection Specialist

TWS

信頼と安心のネットワーク
OTG
OSAKA TOYOPET GROUP

Asuka

PLAT2

Revit
HIGH QUALITY CUSTOM PARTS

REIZ
HIGH QUALITY CUSTOM PARTS

▶ Race Report

PETRONAS TWS GS350 初陣で表彰台圏内を走行も、結果は悔しいDNF

■公式予選 【天候】 晴 【コース】 ドライ

国内の主要モータースポーツシリーズの先陣を切って開幕を迎えた2012年のスーパー耐久シリーズ。その開幕戦の舞台は富士スピードウェイ。20年を超える同シリーズの長い歴史において、このサーキットでの開幕は初めてとなる。

今シーズンOTG MOTOR SPORTS&小林敬一が参戦するST3クラスは7車種ものマシンが参戦する激戦区となったが、その中でOTG MOTOR SPORTSは今季から完全自チームメンテナンスでレクサスGS350を投入。同シリーズ初参戦となるGS350はそのポテンシャルは全くの未知数ながら、STO特認参戦車両という事、さらに昨シーズン、メンテナンスを担当したトレイシースポーツと共にIS350を1シーズンで驚異的に進化させた実績もあり、周囲からも大きな注目を集めながら開幕を迎える事となった。

迎えた公式予選。今回は1day開催という事もあり早朝スタートとなったAドライバー予選セッション。今回のレースでは100%の自社参戦は初めてのチームをまとめる為、ドライバー登録をせずに前日までのテストドライバー&チームの「監督役」という立場で挑んだ小林が見守る中、まずAドライバー予選でマシンに乗り込んだのは吉本大樹選手。その吉本選手は雨に見舞われた前日の公式練習セッションで3番手タイムをマーク、さらにAドライバー予選では「色々なトライも出来たし、去年のIS350の時のスタートと比べたらすごく良いスタートが切れた。予選は公式練習のタイムを更新出来ないとしても、今後に向けて新たなセットで挑みました」と、1'53'329をマーク。さらにその後のBドライバー予選を走った佐藤晋也選手も1'53'110をマークし、合算タイムでは6番手とまずまずの滑り出しを見せ、決勝に重点を置いた戦略で予選を終了する事となった。

■決勝 【天候】 晴 【コース】 ドライ

1day開催ならではの、予選の興奮も醒めやらぬ内に切られた決勝のスタート。この決勝でスタートドライバーを務めたのは吉本大樹選手。今回OTG MOTOR SPORTSの戦略は、まずはスタートを吉本選手が担当。2番手で佐藤選手が走り、最後のステントは今季からチームに合流した脇阪薫一選手でまとめるというもの。するとスタートを務めた吉本選手は、「スタートから数周はまわりの同クラスとバトルも出来たし、自分のステントは良いペースで走りきれた」と、ストレートスピードでの劣勢を抱えながらも一つずつそのポジションをアップ。さらに昨年自らが開発を続けたマシン「IS350」との3番手争いも、前に出たはストレートで抜き返されるという展開がしばらく続いたものの、最終的にはこれも攻略。6番手スタートから表彰台圏内の3番手に上がり、その後もコンスタントに1分54秒台のラップタイムを刻んでいく。

その後吉本選手は2番手との差を徐々に詰めながら41周目にピットイン。ここで佐藤選手にステアリングを託していく。すると代わった佐藤選手もそこから2位との差をさらに詰め始め、「正直苦労すると思う」という開幕前のコメントを良い意味で裏切る、デビューレースでの表彰台獲得が現実味を帯びてくる展開となっていく。佐藤選手はその後もコンスタントに1分55秒台のラップタイムを重ねながら2位のマシンを猛追、78周目にピットへと向かい、ここで今回のCドライバー、脇阪薫一選手へとドライバー交代を行う。

今季、レースによって小林と交代でCドライバーと監督業を兼任する脇阪選手は言わずと知れた国内トップドライバーの一人。昨年同様、3ドライバー全員がコンスタントに速いタイムを刻めるという強みを持つOTG MOTOR SPORTSのピットでは、「この展開なら表彰台には手が届く。後は2位に届くかどうか」という思惑が見え始める。そんな中、佐藤選手からステアリングを受けコースへと戻った脇阪選手。しかしここでPETRONAS TWS GS350に思いもよらぬ展開が待っていた。なんと脇阪選手のコースイン直後にマシンのABSにトラブルが発生。このトラブルでコースオフを余儀なくされてしまい、さらにこのタイミングでメーターやパワステ等の電気系統にもトラブルが。その後、数周は何とか脇阪選手がこれをカバーしながら走行を重ねるも、最終的にはエンジンも止まってしまう事態に。結局マシンは最終コーナー手前でストップする事となり、結果、表彰台獲得は確実かと思われた展開から一転、OTG MOTOR SPORTS&PETRONAS TWS GS350のデビュー戦は、悔しいリタイヤで幕を下ろす事となった。

12' Super Taikyu Series Round_1 / FUJI SPEED WAY
2012.3.25 (Sun) Qualify & Final

▶ 小林敬一 コメント

25 March, 2012

今回はテストの時点からマシンの調子も良く、トラブルが出るまではドライバーや今回デビューとなるOTGスタッフも冷静にピット作業も行え、結果は残念だったとはいえ内容的にはとてもよかったと思う。

次戦のもてぎは自分もドライバーとして参戦しますし、まだまだマシンの進化やOTGスタッフのスキルアップも進化していくと思うので、これからはとても楽しみです。

PARTNERS

VAPSn XPEL
Car Protection Specialist

TWS

信頼と安心のネットワーク
OTG
OSAKA TOYOPET GROUP

Asuka

PLAT2

Revit
HIGH QUALITY CUSTOM PARTS

REIZ
HIGH QUALITY CUSTOM PARTS



【OSAKA TOYOPET motor sports report】 <http://www.osaka-toyopet.jp/contents/motor-sports-report/>
【OTG Motor Sports Club blog】 <http://blog.zaq.ne.jp/otgmsc/>
【Super Taikyu Series Official Site】 <http://www.supertaikyu.com/>